

(表紙)

平成 27 年度

「校長経営戦略予算配付申請書」

大阪市立今福小学校

校長 木戸 安子

平成 27 年 5 月

申請受付日
指導部で記入 → /

【様式 3 - 1】
(所属(市費)コード 691543)

大阪市立 今福小 学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算 【加算配付】配付申請書

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>①平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の平均点以上の児童の割合を、平成 26 年度より 3 ポイント向上させる。 (マネジメント改革関連)</p> <p>②平成 27 年度の学習理解度到達診断における大阪市の平均点以上の児童の割合を、全学年で平成 26 年度より向上させる。 (マネジメント改革関連)</p> <p>③平成 25 年度から、全学年で英語活動に取り組む。 (グローバル改革関連)</p> <p>④平成 27 年度の本校アンケート調査で、「お子さんは、進んで学習に取り組んでいますか」の項目について、「はい（どちらかといえば、はい）」と回答する児童の割合を、全学年で 8 割以上を持続させる。 (ガバナンス改革関連)</p> <p>⑤平成 27 年度の授業アンケート調査で、「お子さまは、授業の内容がわかるようになっていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、全学年で 8 割以上を持続する。 (マネジメント改革関連)</p>	
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>①本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について、「はい（どちらかといえば、はい）」と回答する児童の割合を、平成 26 年度より 2 ポイント以上増加させる。</p> <ul style="list-style-type: none">・児童アンケート「きまりや時間を守って、集団登校していますか」「ろうか・階段は、正しく歩行していますか」「友だちを大切にし、仲良く遊んでいますか」「そうじは、みんなと力を合わせて、きれいにできていますか」「そうじ道具を大切にし、後片付けをきちんとしていますか」 <p>・保護者アンケート</p> <p>「お子さんは、あいさつや場に応じた言葉づかいができますか」</p>	

②本年度の本校アンケート調査で、「学校や家庭・地域などで、地震や火災・事件などが起ったとき、どう行動したらよいか知っていますか」の項目について、「はい（どちらかといえば、はい）」と回答する児童の割合を、85%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

③学校で認知したいじめについて、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。本校アンケートの次の項目を参考にする。

「困ったとき、先生に質問していますか」【26年度については、児童のはい（どちらかといえばはい）の回答は、低学年83.4%、中学年93.1%、高学年64.5%】

「お子さんのことについて、相談がしやすいですか」【26年度については、保護者はい（どちらかといえば、はい）の回答は91.9%】

(マネジメント改革関連)

④豊かな心を養う自然体験学習や郷土大阪に親しむ活動など、体験的活動の充実を図る。

(カリキュラム改革関連)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

進捗
状況

取組内容①【学力の向上】

3年生以上は、国語科・算数科における習熟度別クラス編成時にレディネステストや児童・保護者アンケートを実施し、適正なクラス編成を行う。

発表の際に、基本的な話型を身につけるようにする。

視聴覚機器及びパソコンの研修を実施し、視聴覚機器を使用した学習に取り組む。読書習慣の定着を図るため、読書量を調べるなど、意欲的に取り組めるようにする。

(マネジメント改革関連)

指標

難易度の高い単元を中心に6割程度の単元で、レディネステストとアンケートとともにクラス編成を行う。

学習活動で、電子黒板やCD等を活用する割合を7割以上にする。学習意欲の向上のために視聴覚機器を用いて授業の取り組みの実践を工夫する。視聴覚機器・電子機器の研修を年間3回以上実施する。

児童アンケートで、「進んで本を読んでいますか」の児童の割合を8割以上にする。

取組内容②【体験学習の推進】

ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を充実させる。

豊かな心を養う自然体験学習や郷土大阪に親しむ活動、音楽活動など、体験的活動の充実を図る。

(カリキュラム改革関連)

目標

ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を全学年で、年1回以上実施する。毎時間、音楽の授業において、鑑賞や演奏また歌唱を通して、豊かな情操を養う。

- ・自然体験学習
- ・生活体験学習
- ・ボランティア体験学習
- ・大阪体験学習
- ・芸術文化体験学習

26年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【習熟度別少人数授業の実施、授業研究を伴う校内研修の充実】

- ・子どもたちは、学習に進んで取り組むことができた。（「進んで学習に取り組んでいますか」保護者アンケート 81.0%）
- ・基礎的基本的学力の向上に取り組めた。（今福検定、月6タイム、普段の習熟度別指導、研究授業や公開授業にて指導法の充実、指導力の向上につながった。）

【言語力の育成】

- ・図書委員会の取り組み（読み聞かせや読書カードの取り組み、図書館開放）や城東図書館との連携、読み聞かせレンジャー等を行った。

【英語活動の充実】

- ・英語活動が充実して行えた。NSと協力して授業の計画を立て、児童の興味関心に合わせた内容を進められた。

【校内実技研修の充実】

- ・視聴覚機器及びパソコンの研修では、キューブキッズの使用法や通知表作成の仕方の研修が進められた。なお、それぞれが通知表作成時に、個々にアドバイスを受けられるよう配慮されていた。

27年度への改善点

- ・「正答率7割以上の児童の割合を、平成25年度より5ポイント向上させる。」については、目標設定を検討する必要がある。（大阪市平均と比べる等）
- ・国語の習熟について、授業の進め方について検討が必要である。
- ・落ち着いてねばり強く取り組む子どもを育てる必要がある。
- ・図書委員会の取り組みをもっと児童に広め、読書活動の充実を図る。
- ・話型の掲示物の確認をする。（年度はじめの国語では、話型の共通理解のために指導を全学年で行う 等）
- ・タブレット導入に伴い、その使用法や指導例の研修が必要である。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度（今後）への改善点

◆加算配付申請内容に対応する項目を記載※運営に関する計画再掲

【様式 3 - 2】

大阪市立 今福小 学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算 【加算配付】配付申請書

配付申請額 828,000 円

◆費目別予算(※円単位)

8-1 報償金	11-1 消耗品費	11-4 印刷製本費	11-6 建物修繕料	12-1 通信運搬費	12-4 手数料	12-7 損害保険料
	108,000					

13 委託料	14-1 使用料	14-2 船車賃借料	18-2 校用器具費	18-3 図書購入費	合計
			720,000		828,000

◆取組内容・予算内訳

取組内容①【 学力の向上 】

3年生以上は、国語科・算数科における習熟度別クラス編成時にレディネステストや児童・保護者アンケートを実施し、適正なクラス編成を行う。

発表の際に、基本的な話型を身につけるようにする。

視聴覚機器及びパソコンの研修を実施し、視聴覚機器を使用した学習に取り組む。

読書習慣の定着を図るため、読書量を調べるなど、意欲的に取り組めるようにする。

(マネジメント改革関連)

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
校用器具費	電子黒板一式 50 インチ一体型電子黒板 CBS-LCD50 SC	720,000 (消費税込)

取組内容②【 体験学習の推進 】

ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を充実させる。

豊かな心を養う自然体験学習や郷土大阪に親しむ活動、音楽活動など、体験的活動の充実を図る。

(カリキュラム改革関連)

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
消耗品費	CD デッキ一式 ・ヤマハ CD プレーヤー 41,000 ・ヤマハプリメインアンプ 39,000 (消費税 8,000)	108,000

【様式 3 - 3】

大阪市立今福小学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算 【加算配付】配付申請書 (補足説明資料)

～ストラテジーを練り上げ「学力向上」をめざす～

大阪市立今福小学校
校長 木戸 安子

1 はじめに

本校は、学力向上を中心に据え学校教育を推進している。地域のネイティブの講師を招き、平成 25 年度から 1 年生から 4 年生までの英語教育を推進している。また、大阪市教育委員会から 5 年生 6 年生には C-NET（大阪市外国人英語指導員）が配置されている。平成 25 年度 26 年度、全学年で英語教育に取り組み、一定の評価が得られた。国語・算数について、「月 6 タイム」（週に 1 度、月曜日の 6 時間目に 5 年生 1 クラスを 4 グループに分けた習熟度別少人数指導）での特別授業及び毎週火曜日と金曜日の始業前に今福漢字検定の実践により、基礎・基本の内容の定着が進んだ。また、毎週水曜日始業前の読書タイム「読み聞かせレンジャー」の取り組みにより、相手意識・目的意識をもって高学年が低学年へ読み聞かせをすることができ、児童の読書への関心・意欲が育ちつつある。しかしながら、学力の二極分化や全国学力・学習状況調査において、本校は大変厳しい状況にある。

そこで、「運営に関する計画」を立案し、「校長経営戦略予算」の申請を行いたい。

2 今福小学校を取り巻く厳しい実情

本校にはエレベーターの設置がない。肢体不自由学級には 3 名の車椅子使用の児童が在籍し、そのうち 2 名は四肢麻痺である。校舎建築以外にエレベーター設置の道はないが、平成 25 年に竣工予定であった校舎建築は平成 24 年度に凍結となった。

家庭教育の重要性を、PTA 役員会・実行委員会・PTA 総会・学年懇談会を利用し、根気強く訴え続けている。家庭に聞き入れられない状況の中、地域に協力を得ようと、毎月の町会長会議・今福地域民生委員会・女性部長会・地域活動協議会の会議に校長が出席し、協力を呼びかけている。地域の会議に出席することは、家庭の状況を知り得る絶好のチャンスであり、課題を解決する糸口につながるよい機会であると考えている。

学力向上が、自尊感情を高め、「自分は生まれてきてよかった」「必要な存在」と思えることが、よりいっそうの学力向上につながると考える。全国学力・学習状況調査の結果から学力面や生活面における課題は極めて大きい。

本校を取り巻く厳しい実情の解決のためには、いの一番に、「学力向上」をと考える。

3 学力の課題から見えてくるものとは

ここ数年、全国学力・学習状況調査や大阪市学習理解度調査において、大変厳しい結果となっている。国語・算数の全領域で平均を下回り、無回答率も多い。特に、国語科の B（主として活用）の問題について、平成 26 年度の「二つの詩を比べて読み、自分

の考えを書く」問題では、正答率が 15.6 ポイント（全国は 48.1 ポイント）と低く、無回答率も 62.5 ポイント（全国は 26.0 ポイント）であった。「書くこと」について、課題が大きく厳しい現状である。算数科の B（主として活用）の問題について、平成 26 年度の「示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる」問題では、正答率が 9.4 ポイント（全国は 33.0 ポイント）と低く、無回答率も 43.8 ポイント（全国は 13.1 ポイント）であった。記述式の数学的な考え方「数量関係」に課題が大きく厳しい現状である。

突き詰めて考えると、「正答率が低く、無回答率が高い問題」は、本校児童にとって最難関の問題で、「正答率が低く、無回答率が低い問題」は、困難と考えるものなんとか答えを導こうと挑むことができる問題ということになる。

① 二極分化

国語の長文の問題や算数の数量関係記述式の問題において、「解答困難と判断し問題文を読むこともしない」「あきらめてしまう」「無回答」、一方「なんとか問題に挑もうとする」このような二極分化になっている。

毎日の繰り返しの学習と時間を決めてテスト形式の問題に慣れることと考え、月 6 タイムを設定している。今日指導して、明日結果が出るというものではない。日頃のねばり強い指導が必要であることは言うまでもない。

② 生活の状況

「子どもは、元気に学校行ったらそれでええ」と、保護者からの言葉を聞き、「これはなんとかせにやならん。」と、痛烈な思いをもった。本校児童の家庭学習が成立しない現状が浮かび、生活の状況が厳しくとも学力の向上を図る手立てを模索しなければと強く考えた。保護者が早朝の仕事に出て、年下のきょうだいの世話をしながら、遅刻して登校という児童がいる。また、一方で、保護者の帰宅が遅く、寝ないで帰宅を待つ児童もいる。民生委員会で相談する事案も後を絶たない。

基本的生活習慣の確立も含め、児童がおかれている生活背景の厳しさは、学力向上へのかべとなっている。

③ 各学年単学級、特別支援学級 5 学級

本校は、各学年単学級である。一方で、特別支援学級、知的 1 学級 7 名・病弱 1 学級 3 名・肢体不自由 1 学級 3 名・自閉 2 学級 10 名、合計 23 名が在籍している。学年別の特別支援学級児童、1 年 1 名、2 年 5 名、3 年 6 名、4 年 5 名、5 年 1 名、6 年 5 名である。それぞれに課題を抱えている児童であり、特別支援教育を進めずして、本校の教育は語れない。毎月行われる「校内委員会」において、特別支援学級在籍児童を中心とした話し合いが行われ、共通理解を図っている。

学力向上とともに自尊感情を育てる指導が重要と考えている。

4 目標達成に向けたストラテジー

前述したように、本校が抱えている課題は極めて大きい。大阪市の状況を見ても同じような課題が浮き彫りにされるのではないかと考える。大阪市がそもそもと言えば日本が抱えるところの、今日的課題といつても過言ではないであろう。本年度、これらの

課題を解決し、来年度に向けて全力で取り組むための不可欠な目標達成に向けたストラテジー校長戦略を以下に述べる。

① 個別学習支援の充実に向けて

今まで述べてきたように、学力の二極分化傾向が著しい。国語・算数について「月6タイム」（週に1度、月曜日の6時間目に5年生1クラスを4グループに分けた習熟度別少人数指導）での特別授業や毎週火曜日と金曜日の始業前に今福漢字検定の実践により、基礎・基本の内容の定着が進んだ。また、毎週水曜日始業前の読書タイム「読み聞かせレンジャー」の取り組みにより、読書への関心・意欲が育ちつつある。

そこで、学習指導材の工夫をより推進させるために新たに電子黒板を導入したい。このことは、「視覚優位」の特別支援学級在籍児童に知識・理解が進むのみならず、通常学級の児童の理解も深化すると確信する。

現在ある電子黒板は3階の図書室に設置し、外国語活動や習熟度別少人数指導、ゲストティーチャーによる「そろばん」指導、大阪欄間伝統工芸士による指導などで大活躍している。

「今福小学校を取り巻く厳しい実情」で述べたように、「本校にはエレベーターの設置が無い」そのため、階下への教室の移動が難しく、新たな電子黒板の設置を切望する。一斉授業での指導、また、解答を導くための手立てや手引き、児童の思考のプロセスや基礎・基本の定着のため、ボトムアップが期待される。本年度から教育のユニバーサルデザインをめざす指導を試みている中、「視覚優位」の児童には特に、そして本校の全児童にとって学習指導を実践する際に有効である。

学力の二極分化の解消もさることながら、何よりも、児童それぞれが自分の学習理解度にあった状態で学力の向上を図ることができると考える。

特に、特別支援学級在籍児童にとって、「できた」「わかった」という思いは、生きる力をはぐくむ上で、必要不可欠なものである。児童の最大の利益を考えると、電子黒板の設置は、個別学習支援にとって多大な教育効果が期待できるものである。

② わくわく感どきどき感うきうき感を味わうために

「あしたも学校に来たい」という思いは、学力向上に不可欠である。

算数や国語に代表される机上の学習では得ることができにくい「わくわく感どきどき感うきうき感」を音楽の授業を通して実感させたい。

「互いの声を聴き合う」「互いの演奏を聴き合う」「鑑賞する」「時間内に歌った歌を録音し、違うパートと合わせる」「時間内に演奏したパートと別のパートを合わせる」CDの機能を活用し、児童の気持ちを「わくわく・どきどき・うきうき」させたいと考える。音楽の授業で、リコーダーの演奏が上達し、そのことが他の教科学習への学習効果となり学力向上につながることがある。

音楽の授業のより効果的な指導のためにCDの機能を活用し取り組みたい。机上の学習でふさぎこんだ時も、音楽でよみがえり自尊感情が高まり、学習意欲が高まる可能性もあると考える。

③ 少子高齢化の時代に

土曜授業がはじまり、平成25年度から本年度に至るまで、地域関係諸機関とタイアップした「防災減災教育」を推進してきた。

来校いただくのは、保護者のみならず、消防署の方や区役所危機管理担当の方、そして、地域の見守り隊や地域活動協議会の方々である。保護者が忙しく、自分自身の生活で精いっぱいの状況が見てとれる。「地域は学校の宝」と考え、校長として、地域の方々を大事にしたいと考える。

とりわけ、本年度、新たに「図書館ボランティア」「お掃除ボランティア」の方々が来校し、児童の学力を支え、心を耕すお掃除の時間の取り組みが整った。地域の「見守り隊」や「地域活動協議会」の方々「図書館ボランティア」「お掃除ボランティア」の方々は、みなさん年功を重ねられた方である。大切にして、今福小学校の児童のために、今後ともご尽力を賜りたいと考える。

5 おわりに

学力向上のためのストラテジーを練り上げるために、学校を見て、児童を見て、教職員を見て、地域を見る。校長の役割は、鋭い洞察力とゆるぎない判断と考えている。地域活動協議会・民生委員会・地域女性部長会・町会長会議などの地域の会や、夏祭り・秋祭り、高齢者食事会、地域防災訓練、地域人権講演会に参加しながら、今福小学校の児童のためにどんな取り組みが有効か、地域を巻き込んで、家庭教育では得ることができない支援をお願いできないものかと考える。区役所・消防署・図書館・警察署等の地域関係諸機関と連携し、学力向上を中心とした、よりすばらしい児童の飛躍が期待できないものかとも考える。「今福小学校で学ぶことができて、本当によかった」と思える学校に、未来にはばたき活躍する人材をはぐくむために、私は校長として「校長経営戦略予算」を申請する。